

住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第141号 平成28年9月30日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
編集者 太田有香
発行責任者 竹迫昭弥

目次

農家さん訪問記 (125)【愛知・なし】	p.1
ムシできない虫の話 その	p.6
食の安全性について考える(55)	
【43：農薬中の不純物について】	p.9
防除のすゝめ【施設栽培果菜類の病害虫防除】	p.10
今月のご相談から【粘着くん液剤 /バリダシン液剤5 /液肥M号】	p.12
農薬登録情報	p.13
10月のおすすめ製品	p.14
オリーブづくり奮戦記	p.15
農業高校の今	p.17
【お知らせ】訪問農家さん募集！ 他	p.20
i-農力だより農園	p.21
美味しい時間へようこそ	p.22
編集後記	p.23



ナナカマドとハシブトガラ
富樫 信樹 画

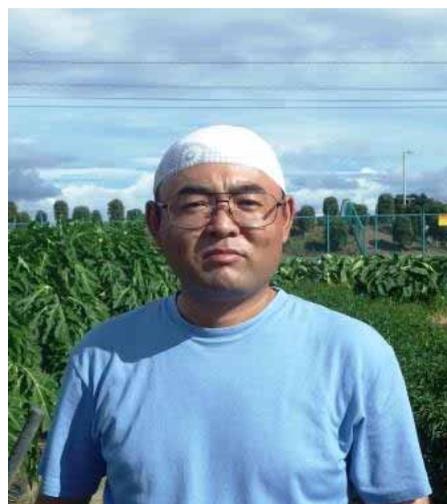
農家さん訪問記(125)

= 梨の継承、新規のパパイヤ =

今回は愛知県の三河湾に面した三河平野の真ん中にある安城市小川町を訪ねて梨の栽培を受け継ぎながら新規にグリーンパパイヤの栽培に挑戦されている杉浦透さん(45歳)にお話を伺いました。三河平野は平坦な土地が広がり、良質の土壌に恵まれ、農業生産性が高く、古来この富を背景に多くの豪族を輩出しました。その代表格が徳川將軍家です。訪問した小川町は新幹線「三河安城」駅の南10kmに位置し、三河湾にそそぐ矢作川の近くにあります。

訪問前は台風9号が東海地方に大きな被害を与えて通過し、訪問当日の愛知県方面は大雨との天気予報でしたが、杉浦さん宅を訪問した時は雨の気配など全くなく、夏の厳しい日差しの下でお話を伺い、畑を見学させて頂きました。

(訪問日8月24日)



杉浦 透さん

梨栽培を続けながら・・・

杉浦さんのお母さんがお嫁に来た頃、杉浦家では梨を 17a 程栽培し、その他にだいこんやきなうり（まくわうり）を加え、全体で 67a の栽培面積でした。その当時の農作業はお母さんとお婆さん、会社勤めをしながらのお父さんの 3 人でこなしていましたが、しばらくして、梨はお母さんが栽培技術をお婆さんから教えてもらいながら、2 人で栽培することにしました。昭和 55 年になると、それまで栽培していた品種の「長十郎」を「幸水」に切り替えるため、農協の梨部会に参加し、お母さんは「梨栽培の作業は私が全部やる」と決めたそうです。

こうして、お母さんを主体に梨を栽培し、だいこんやきなうりを栽培していましたが、近隣の自動車関連工場から畑を買収したいとの要望があり、売却することになりました。この畑は杉浦家の屋敷から道路を隔てたところにありましたが、この畑の売却の代替え地として得た畑は車で 5 分程のところにあります。

だいこんやきなうりの栽培は日々の作業量が梨栽培に比べて多く、お婆さん、お母さん、お父さんの 3 人では作業が回らなくなっており、この代替え地では梨を栽培することにしました。「梨栽培の作業は私が全部やると決めた」お母さんはこの新しい畑での梨の仕立ても行っています。2 つの時期に移植された梨は見事に仕立てられており、梨園に入った時に思わず「綺麗ですね！！」と大声を出してしまいました。



見事に仕立てられた梨園

パパイヤを手掛ける

畑の売却準備と代替え地での栽培が始まる頃、杉浦さんが会社務めを辞め、実家の農業を継ぐことになりました。そして 10 年程前から杉浦さんはだいこんやきなうり以外に商品価値の高い野菜を求めて色々な野菜の栽培に挑戦しました。数多くの野菜に挑戦しましたが、これはまさにトライ&エラーでなかなかうまくいきませんでした。こうした中、ズッキーニの栽培が順調になり、さらに 3 年前からはとうがらしの栽培も軌道に乗ってきました。

このようにトライ&エラーを繰り返しているうちにも、杉浦さんは果実でおいしく食べることが出来るものも探していました。7 年前、インターネットを見ていると偶然グリーンパパイヤの記事が目にとまりました。

「これは面白そうだ」と思った杉浦さんは早速パパイヤの種を少し購入し、栽培を始めました。



出荷準備中のとうがらし

勿論、この時杉浦さんはパパイヤの栽培は全く初めてです。

種を播き、苗を育てて、畑に10株定植しました。しかし、10株の中のほとんどが枯れてしまいました。それでも5個のグリーンパパイヤが収穫できました。そこで、杉浦さんはとりあえずいつも出荷している産直のお店に並べてみることにしました。台の上にグリーンパパイヤを並べると直ぐに箱の中に手を出して、グリーンパパイヤを宝物のように大事に扱うお客さんがいました。そしてなんと、5個のグリーンパパイヤがすぐに売り切れました。驚いた杉浦さんはこのお客さんに話を聞くことにしました。この方は東南アジア系の人で、「故郷の味を求めているがグリーンパパイヤは手に入りにくい」と言っていたそうです。愛知県は比較的東南アジア系の人が多く、この話を聞いて杉浦さんは「いける！！」と感じました。

パパイヤも育苗が肝心

「いける！！」と感じ、本格的な栽培を開始しましたが、杉浦さんにとってパパイヤ栽培は全くの手探り状態です。どのような管理をしていけば、品質の良い果実を、安定的に確保できるか、播種の時期、育苗の条件、定植の時期、肥料設計、水分管理、土壌条件等検討しなければならない課題が沢山あります。最初の栽培で10株の殆どを枯らした経験から、播種時期・育苗方法が生育・収量を左右すると感じていた杉浦さんは播種時期を変え、育苗中の温度管理を徹底的に検討しました。育苗期間中の温度管理が苗の品質に一番影響するそうで、育苗期間中は毎日ハウスの温度をチェックする必要があります。このため育苗期間中は休みが取れないそうです。これらの検討結果は杉浦さんのノウハウで「管理方法は秘密です」と笑っておられました。育苗の方法を検討されているところを見せて頂きました。苗段階では強い直射日光には弱いので柿の木の下に苗が置いてあり、大きいけれど枯れかかっている苗、小さいけれどしっかりとした苗が並んでいました。杉浦さんによると左の大きな苗は失敗で、右の小さい苗は成功だそうです。



大きい苗



小さい苗

パパイヤの生育

5月に定植したパパイヤの畑を見せて頂きました。杉浦さんから「パパイヤは1年で生育し収穫できます」と聞いていましたが、最初に案内された畑では、人の背丈より大きく生育したパパイヤがずらりと並んでいました。それぞれの株には茎の下の方に見事に生育し



た果実がぶらさがっており、その生育ぶりを見ていると思わず「わくわく」としました。果実は1個3kgほどもあり、大きいものでは冬瓜程にもなるそうです。

パパイヤの生育には畑の肥培管理が重要で、定植の2ヶ月前に牛糞堆肥を主体に10a当たり数トン投入します。一方、怖いのは水分です。生育の旺盛な時に雨になると果実が肥大し、落果してしまいます。難しいのは落下する果実を見分けられないことです。小さくても落ちる果実もあれば、大きくても落ちない果実もあります。さらに怖いのは台風だそうで、強い風で葉が折れ、果実が落ちる被害が出るそうです。

杉浦さんから「パパイヤの生育には土の性質が強く影響します。次に案内する畑では此处と生育が全然違います」との説明を受けながら、若干離れた場所にある畑に案内されました。そして次に案内された畑のパパイヤを見た時、その大きさにビックリしました。丈は3m近くになり、株の幅は2mあります。地際部の茎（幹？）は直径が10cm以上ありました。最初に案内されたパパイヤと同じ時期に同じ苗を植えたとはとても思えない程で、5月に定植した苗が4ヶ月弱で見上げるようなものになることに改めて驚きました。パパイヤの収穫・出荷作業は8月下旬以降になります。梨（幸水が主）の収穫・出荷作業がお盆までなので、これと重ならないよう生育の調整ができるよう栽培のスケジュールを組んでいます。



4ヶ月で見上げるまでに生育したパパイヤ



地際部の茎（幹？）

口コミで広がる販売

産直の店での出来事の次の年から本格的にパパイヤ栽培に取り組み、始めの頃は10aに150本栽培していました。現在では、注文も増え、20aに250本栽培するようになりました。また、1株当たりの収量も増加し、30個以上になっています。

収穫した果実の販売も順調です。産直のお店での販売に加えて、FAXでの直接注文も受けています。直接注文の拡大には最初にパパイヤを宝物のように扱っていた人が周辺に口コミでPRしてくれたことがキッカケとなっています。この人はタイの人で7年前の出会い以来、今もお付き合いがあります。口コミによる輪は次々と拡がり、名古屋にあるお店からも注文が入るようになってきました。また、新聞にも紹介され、インターネットでは「愛知県>杉浦>パパイヤ」で検索すると杉浦さんの紹介記事を読覧できるようになっています。

また面白ことにテレビ番組で青パパイヤ料理が放映されると、注文が多くなるそうです。

「ただ今修行中」

杉浦さんにとってパパイヤ栽培は播種の時期、育苗中の管理方法、定植の時期、土質に合わせた肥培管理、水分の調整等、検討しなければならないことが満載です。大きく成長したパパイヤの傍らで、「ただ今修行中です」とニコリ笑っておられました。



今回の訪問はイノチオプラントケア株式会社及び JA あいち中央のご紹介で実現しました。感謝いたします。

(山脇)



なしの病害防除に



[目次へ戻る](#)

ムシできない虫の話

フーン そうなんだ!

その③ タイワントガリキジラミ

技術顧問 清水喜一

「害虫の名前を知る方法」シリーズ続編です。今度は特にテーマを決めなくて、これまでの経験の中から皆さんがふーん、そうなんだと少しは感心し、興味を持ってもらえるような話題を提供したいと考えています。

第3回目はタイワントガリキジラミという害虫によるモチノキの被害についてご紹介します。



モチノキとタイワントガリキジラミ

モチノキ（ホンモチ）という庭木をご存じでしょうか。我が国では東北地方南部から沖縄県にかけて分布し、海外では、台湾、朝鮮半島、中国などにも分布します。公園樹や庭木タイプの樹木で、大きくなると高さ10～20メートルにもなりますが、特にきれいな花が咲くわけでもなく、普段はあまり気にしない種類の樹木だと思います。ところが最近、このモチノキに気になる被害が多発しています。



写真1:モチノキの葉が黒くなる被害(冬期)

モチノキの被害

モチノキの葉が黒く汚れ、ひどいときには早期に落葉してしまうような被害が各地で多く見られます(写真1)。一見、病気の被害かと思間違えてしまいが、実はこれは害虫による被害なのです。害虫の名はタイワントガリキジラミと言います。いつの頃かははっきりしませんが、我が国に侵入した害虫のようで、現在はモチノキの分布するところにはどこにでも発生しています。モチノキ属のクロガネモチ、ネズミモチなどにも寄生しますが、モチノキの被害が甚だしいようです。

タイワントガリキジラミ



写真2:雌成虫



写真3:雄成虫と卵

タイワントガリキジラミ

分類学的には半翅目(カメムシ目)、同翅亜目(ヨコバイ亜目)、キジラミ上科に属している昆虫ですが、外見はウンカ類によく似ています(写真2)。雌雄ともに腹部に白い横線が2本あるのが特徴で、体長は2～3mm前後です(写



写真 4: 羽化直後の成虫



写真 5: 産卵直後の卵



写真 6: 歩行を開始した孵化幼虫



写真 7: 羽化間近の幼虫

真 2、3)。成虫は3月下旬頃から4月にかけて羽化します。羽化したばかりの成虫は全体がきれいなクリーム色をしています(写真4)。

羽化した成虫はモチノキの廻りを飛び回っていますが、やがて交尾し、卵を産み始めます。モチノキの新芽全体を覆うようにおびただしい数の卵を産み付けます。産卵直後の卵は白と淡いクリーム色のツートンカラーです(写真5)。卵はやがて全体が茶色くなり、黒くなってから幼虫が孵化してきます。オンシツコナジラミやタバココナジラミと同様に孵化幼虫だけは歩行することが可能です(写真6)。葉裏まで移動した孵化幼虫は適当な場所で葉にくぼみを作って落ち着き、やがて脱皮して2齢幼虫になります。2齢幼虫になると移動することなく翌年羽化するまで同じ場所で発育を続けます。春3月、終齢幼虫(蛹)の眼点が赤くなってやがて羽化します(写真7)。年間の発生回数は1回だけです。

被害の進展

葉裏から吸汁加害しますが、葉の表側に被害が現れ始めます。5月頃になると一様に緑色だった葉色がまだら模様になり、葉は波打つようになって一見ウイルス病のような症状になります(写真8)。夏になるとさらに被害が進展し、遠目にもはっきりと被害が分かるようになります(写真9)。



写真 8: 5月頃の一見ウイルス病のような被害葉

やがて緑色の抜けた部分は茶色から褐色、紫黒色に変色し、被害が甚大な場合には冬を迎える前に落葉してしまいます（写真10～12）。

タイワントガリキジラミによる被害は虫えい（虫こぶ）の1種とされ「モチノキハクボミフシ」と呼ばれています。



写真9: 7月頃の被害葉



写真10: 冬期の被害葉（葉表）



写真11: 冬期の被害葉（葉裏）

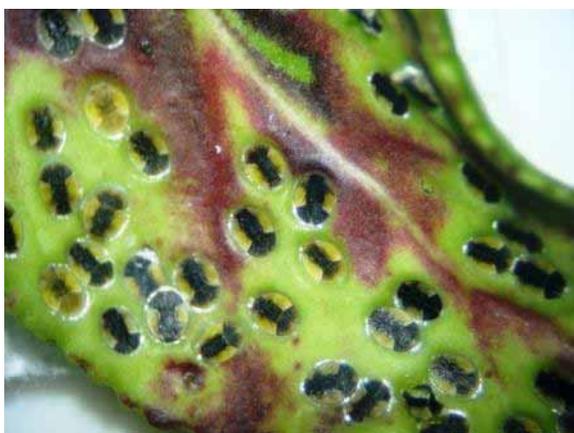


写真12: 多寄生を受けた被害葉

防除

現在のところ、モチノキの本虫に対する登録農薬はありません。新たに苗を導入するときは寄生がないことを確認しなければなりません。無農薬で栽培している場合にはひどい被害になることもあるようですが、春先にアブラムシ類の防除を行っている则ほとんど被害が発生しないようです。

[目次へ戻る](#)

食の安全性について考える(55)**43 農薬中の不純物について**

農薬を取り扱うにあたり、大きな3つの安全性が問われることとなります。

第1は、農薬の取扱者すなわち農薬の製造、散布作業などに従事しているものが曝露して被害にあう場合。第2に、農薬が作物に残留し、それが摂取されて人体に影響を及ぼす場合。第3に、農薬が自然環境や生態系に及ぼす影響などについてです。特に、近年は環境運動の高まりとともに農薬への関心も一段と強まっています。それらのことを踏まえ、農薬の安全性について、わかりやすく解説した農薬工業会編「なるほど！ なっとく！ 農薬Q&A」をしばらく掲載します。(赤山)



絵：加藤さん

Q：ベトナム戦争ではダイオキシンを含む枯葉剤が使われ、それを浴びた親から奇形児が生まれたと言われています。農薬にはダイオキシン類のような毒性の強い不純物は含まれていないのですか。

A：ベトナム戦争で使われた枯葉剤には何種類もあり、そのうちオレンジ剤は日本も含め世界中で使われていた除草剤 2.4.5-T と 2.4-D を半分ずつ混ぜたものでした。当時、2.4.5-T には不純物として微量のダイオキシン類（ダイオキシンは1種類の物質ではなく全部で222種の異性体の総称です）が含まれていました。

現在、登録されているどの農薬についてもダイオキシンが非意図的に生成しないような合成方法が工夫され、実際に含まれていないことが、非常に精密な分析により確認されています。

登録された農薬の有効成分（原体）は、その製造方法、製造場所、不純物成分およびその含有率などが届出内容に従って厳格に規定されており、農薬登録の時には不純物も含めて厳密な安全性試験を実施して、その安全性が確保されています。製剤についてはその製造に用いる補助成分についても規定されています。

参考文献

*渡辺正、林俊郎『ダイオキシン』2003、日本評論社 *E.M.フェラン『創られた恐怖』1996、昭和堂

[目次へ戻る](#)

生き字引相談員の

防除のすゝめ

～施設栽培果菜類の病虫害防除と住友化学お薦め農薬～



(第三回) トマト：病害編一

トマトは世界に 8,000 種を超える品種があると言われ、日本国内でもミニトマトも合すると 120 品種以上が栽培されています。今や国内で最も栽培面積および生産量の多い果菜類となっています。作型が多種多様で、施設栽培では栽培期間が長いこともあり、病虫害の種類や発生量も多く、その被害回避のために植付前から収穫期まで、施設内の湿度および温度管理を行いながら、予防を中心とした防除スケジュールを組立てる必要があります。

今回は、施設栽培のトマトで発生する主要な病害と、それぞれに適用のある当社の登録薬剤（商品名）をご紹介します。

<灰色かび病>

灰色かび病は施設栽培果菜類の代表的な病害の一つで、一般に 11～4 月にかけて花弁、果実、葉などに多く発生します。発病前から予防的に 7～10 日間隔で薬剤散布しますが、薬剤耐性菌の出現を回避するためにも同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布が必要です。

灰色かび病防除に ピクシオDF、ダコニール1000、ベンレート水和剤、スミレックス水和剤、スミブレンド水和剤、スミレックスくん煙顆粒、ポリオキシシンAL水溶剤「科研」



灰色かび病

<菌核病>

菌核病は無加温栽培で発生が多く、低温（15～20℃）、多湿条件下核から子のう盤を形成し、子のう胞子を放出・分散させて感染発病し、主に茎部に病斑が進展します。発病部から密生した菌糸が見られ、後に黒色でネズミの糞状の菌核を形成します。防除は、発病前から 7～10 日間隔で予防散布を行います。

菌核病防除に スクレアフロアブル、ピクシオDF、ベンレート水和剤



菌核病



<葉かび病>

葉かび病は施設栽培の重要な病害です。葉かび病菌は 95%以上の湿度と 20～25℃の温度を好むので、露地栽培での発生はまれです。主に下葉から発病し徐々に上葉に広がり、病勢が激しくなると着果不良、果実肥大の不良、早期着色などの被害が発生します。発病前からの予防的薬剤散布が効果的で、発病初期から 7 日間隔で散布します。また、菌は気孔から侵入しますので、薬液が葉裏にも十分かかるように散布します。

葉かび病防除に ダコニール1000、ダコニールくん煙剤、ダコニール粉剤、ベンレート水和剤、ポリオキシシンAL水溶剤「科研」、ボルドー（水和剤）



葉かび病(小玉氏提供)

<疫病>

疫病は20℃前後の低温と多湿の条件が続くと、発病しやすい病害です。施設栽培では湿度管理、排水対策などハウス環境の適正化が進んだこともあり、疫病の発生は減少傾向にあるようです。しかしながら、露地栽培では油断のならない病害です。

対策としては、発病前から定期的に薬剤による予防散布を行うことがポイントです。散布間隔は発病のごく初期には3～5日ごとに、多発が懸念される場合や多発時には2～3日ごとに散布します。

疫病防除に **ベネセット水和剤、ダコニール1000、ボルドー（水和剤）**



疫病

<うどんこ病>

うどんこ病は施設栽培で問題になることが多い病害です。乾燥条件で多発し、20～25℃が適温で、病勢が進行すると防除が困難となりますので、多発する前に早期防除に努めます。

うどんこ病防除に **ダコニール1000**



うどんこ病

<萎凋病>

萎凋病はトマトの導管部を侵す導管病です。土壌および種子で伝染します。土壌温度が高い時に発病しやすく、根、茎、葉が侵され、下葉から順次黄化して枯死します。対策としては、耕種的対策（連作を避ける、抵抗性品種の植付け、発病株の除去、など）とともに土壌消毒（土壌消毒剤、太陽熱利用、熱水利用）を実施します。

萎凋病対策に **ベンレート水和剤**

（ベンレート水和剤のみの使用では、条件によって効果が不十分なこともありますので、前記の耕種的対策、土壌消毒と組み合わせてご使用ください）



萎凋病(小玉氏提供)

<土壌病害>

トマトでは萎凋病のほかに多くの土壌病害があります。

- ・細菌による病害：青枯病、かいよう病
- ・糸状菌による病害：萎凋病、半身萎凋病、根腐萎凋病、褐色根腐病

いずれも耕種的対策や土壌消毒を実施することで、事前に発病防止策を講じます。



上記のほか、被害の大きな病害として虫媒伝染により発病するウィルス病（モザイク病、黄化葉巻病、黄化萎縮病など）がありますが、次回「トマト：害虫編」でご紹介します。

具体的に薬剤を選択・散布される際には、各剤のラベル等で登録内容、使用上の注意事項を確認して適正な使用をお願いします。なお、トマトとミニトマトは、その果実直径で登録が区分されていますのでご注意ください。

（トマト：果実直径3cm以下のものは含まない、ミニトマト：果実直径3cm以下のもの）

（納谷）

[目次へ戻る](#)

「知りたい！聞きたい！農薬・肥料」のお客さま相談室より

今月のご相談から



1. 群馬県 農家の方

Q：育苗期のいちごにハダニが発生したので、定植する前に粘着くん液剤で防除したい。連続して使用する場合の散布間隔や効果的な使用方法があれば教えてください。

A：粘着くん液剤は、ハダニの成虫や若虫・幼虫に対して効果を発揮する薬剤です。本剤の効果的な散布時期として、成虫の寄生が見え始めた発生初期をお勧めします。本剤は散布液でハダニを包み込み窒息させて効果を現します。従って、ハダニの生息している葉裏を含めてかけムラの無いように十分量散布してください。殺卵効果はありませんので、寄生が多い場合は連続散布及び殺卵効果の高い他の殺ダニ剤とのローテーションが有効で、散布間隔に制限はありません。なお、有効成分が沈殿している場合がありますので調合する前にボトルを良く振ってください。ミツバチに対しては安全性が高く、散布液が乾けば訪花活動に悪影響は及ぼしません。



2. 鳥取県 農家の方

Q：白ねぎを20アール栽培しています。現在、40-50cmに生育していますが、白絹病だけでなく軟腐病も発病が見られます。ネットで調べたらバリダシン液剤5は両病害に有効であることを確認しました。使用方法で白絹病は株元散布、軟腐病は散布と処理方法が異なりますが、同時防除の場合どのように処理したら良いのでしょうか？ねぎは繁茂していますが株元は上から見る事ができます。又、展着剤は加えた方が良いでしょうか？

A：バリダシン液剤5は、ねぎの白絹病及び軟腐病に500倍にて、収穫14日前迄、最大1回の使用です。白絹病は土壌伝染による病害のために株元散布、軟腐病は茎葉病害のため作物全体に散布します。株元と茎葉への散布のため用法が異なりますが、希釈倍数、使用時期、使用回数は共通です。軟腐病の防除は500倍液を茎葉に丁寧に散布して下さい。茎葉に500倍液が一定量付着するとその後はいくら散布しても茎葉には付着せず、作物の隙間から株元に落下します。通常なら10アール当たり100Lの散布液量を300Lまで増やせば白絹病防除にも有効と考えられます。ねぎは薬剤が付着しにくい性質があり、軟腐病への安定した効果のためには展着剤を加えることをお勧めします。

3. 長野県 農家の方

Q：カーネーションで液肥M号の使用を検討しています。本剤の特徴は何でしょうか？硝酸態チツソを含んでいますか？通常の有機液肥との違いは何でしょうか？

A：液肥M号はメチオニンとグルタミン酸をアミノ酸として含んだ液肥です。通常のアミノ酸入り液肥はアミノ酸含量が一定していませんが、液肥M号は一定でかつ高濃度含んでいます。硝酸態チツソは441号で1.2%、862号で2.9%含んでいます。また、通常の有機液肥は黒く濁っていますが、液肥M号は透明です。

(酒井)

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

8月24日の主な適用拡大の内容です。

詳細はここをクリックしてください。

<http://www.i-nouryoku.com/prod/tekiyou/2016.html>



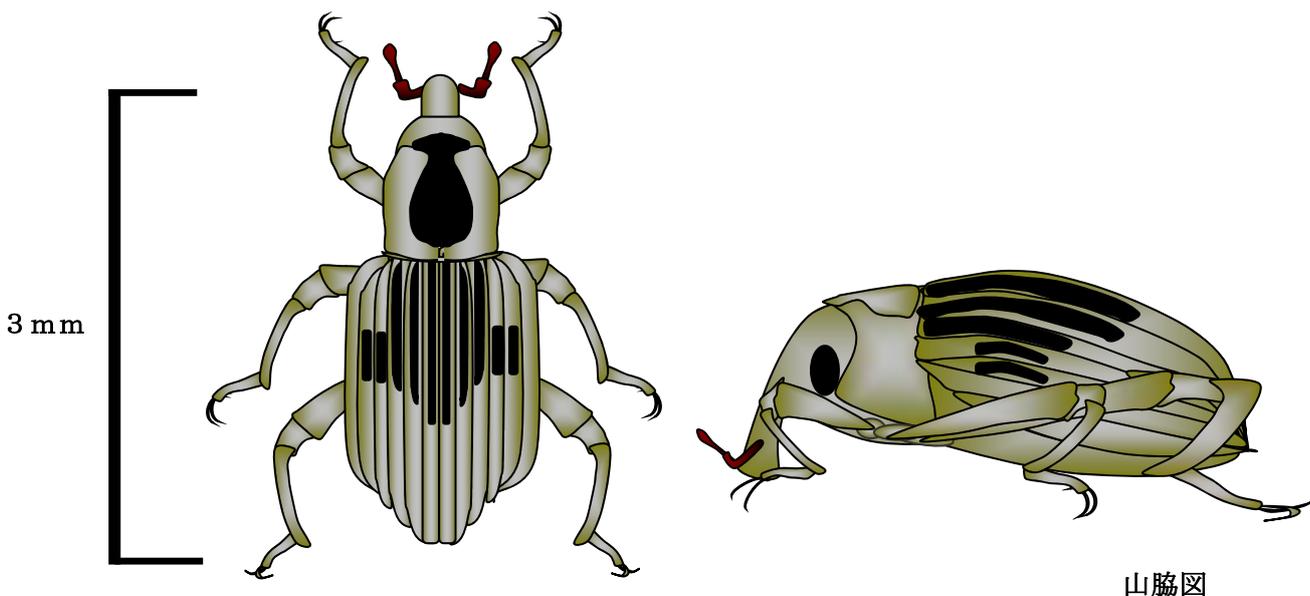
○殺虫剤

薬剤と変更日時	変更項目	適用作物	変更前	変更後
住化スミチオン乳剤 (2016/8/24)	害虫追加	あずき	アズキノメイガ [*] 他6害虫	左記にマメホソクチゾ [*] ウムシ (1000倍)を追加
		茶	コカモンハマキ チャノホリガ [*]	コカモンハマキ チャノホリガ [*] ミノガ [*] 類(1000倍)
キャベツ		コナガ [*] 、アオムシ ハイマダ [*] ラノメイガ [*] アブラムシ	コナガ [*] 、アオムシ ハイマダ [*] ラノメイガ [*] アブラムシ、ナメクジ [*] 類	
りんご		カメムシ類他5害虫	左記にヨモギ [*] エダ [*] シヤクを 追加	
パダンSG水溶剤 (2016/8/24)				
イカズチWDG (2016/8/24)				

○殺虫殺菌剤

薬剤と変更日時	変更項目	適用作物	変更前	変更後
スタウトダントツ ディアナ箱粒剤 (2016/8/24)	害虫追加	稲	イネミスゾウムシ いもち病	イネミスゾウムシ イネト [*] ロイムシ いもち病

(山脇)



山脇図

イネミスゾウムシ

[目次へ戻る](#)

10月のおすすめ製品



画像をクリックしていただくと、i-農力サイトの詳細ページが表示されます。

水稻農薬

箱王子粒剤



播種前～移植当日まで使用でき
いもち病・初期害虫・チョウ目害虫
などを徹底防除！

箱いり娘粒剤



水稻の主要害虫・いもち病・
紋枯病をまとめて防除可能！

スタウトパディート 箱粒剤

病害虫の侵入を許さぬ強固な守り



播種前～移植当日まで使用でき
いもち病・初期害虫・フタヒコヤガ
を防除！

ワンリードSP 箱粒剤



播種前～移植時まで使用可能！
めざせ、豊穡の大地！

園芸農薬

ロビンフッド



食入孔にノズルを差し込み強力
殺虫！ヒメボクトウ・カミキリムシ
類を省力防除。待望の新商品！

ベンレート水和剤



水稻・果樹・野菜の病害防除！

スクレアフロアブル



なし・もも・豆・葉菜の殺菌剤！
ついに新登場！！

ダントツ



幅広い殺虫効果＆優れた
浸透移行性！残効も長い♪

除草剤

ゼータタイガー



3成分配合でクログワイに底
力！3製剤勢揃いで新登場！

ゼータハンマー



2成分で高葉齢のノビエにも
高い効果！田植同時処理可

ゼータワン メガゼータ



難防除雑草に優れた効果！
3剤型勢揃い！

ゴエモン



ノビエに卓効の新規成分！
ついにジャンボ登場！

肥料

楽一



倒伏軽減剤入り
水稻用基肥一発肥料

スミショート



幼穂形成期(出穂 25 日前)
施用 穂肥が早まり安定多収

住友 液肥M号



メチオニン・グルタミン酸
添加アミノ酸入り液肥

スミカエース



野菜・果樹・花き・芝生・茶用
硝酸化成抑制材 DCS 含有

オリーブづくり奮戦記④

(香川県多度津町で)

前回までのあらすじは、ぶどうの耕作放棄地にオリーブの苗木を植えるまでの話でした。今回は順序が逆になりますが、苗木を植えるまでに、オリーブ生産部会の講習会や日本オリーブオイルソムリエ協会の「ジュニアソムリエコース」を受講して、準備した話です。

オリーブ生産部会講習会初参加

2013年秋、オリーブの苗木を定植前に、多度津オリーブ生産部会主催の講習会に初参加しました。講師は普及センターと保健所の方々です。内容はオリーブの重要病害虫の生態及び防除、そして新漬け（ピクルス）の作り方でした。

オリーブの重要害虫「オリーブアナアキゾウムシ」は株元に産卵し、孵化した幼虫は樹幹を食入します(写真:右)。私の浅い経験では、「なんとなくオリーブの木が元気ないぞ！」



と気付いたときはすでに食入しています。実際、植えたオリーブの木は、1割ほど本虫の被害で枯れました。大きく育っていた木が枯れるのを見ると口惜しいのですが、原因は雑草防除が十分出来なかったことです。園地が雑草で覆われるとゾウムシは産卵がしやすく、被害痕が見つげらなくなるためです。それに懲りて今年は春先から毎月帰省して、オリーブ仲間から自走式草刈機（ハンマーナイフモア）を借りて刈りました。その甲斐があつてか被害は激減しましたが、帰省の度にぐったり疲れます。余談ですが、梅雨明け時の草刈で私は熱中症になりかけました。普段は誰も通らない山の園地で倒れると、そのままお陀仏です。これに懲りて来夏は除草剤を有効に使おうと思った次第です。

オリーブの品種特性

ここでオリーブの品種と栽培について少しお話します。

多度津オリーブ生産組合の主な品種は「ミッション」です。本種は樹高が高く、ハート型の果径で、一粒が2.5~3.0gほどあります。オイルは若草のようなフレッシュな香りと味がします。本種は、隔年結果が強く、病害虫もつきやすいようです。オリーブは自家不和合性といって、同じ品種では結実しません。そのため異なる品種（受粉樹）を1割程度混植しなければなりません。おもに受粉樹の品種はネバディロブランコ(写真:左)です。受粉樹としての条件は、開花時期が同じで、花粉量が多いことです。ネバディロブランコはミッションよりも実の粒が大きく、収穫も早く、新漬けにしても大変美味しく、私は気に入っています。



オリーブの開花は5月下旬、収穫は10月~11月です。その開花時期に雨が多いとうまく花粉が飛ばず、結実が不良となります。オリーブの実の前年伸びた枝につく(結果母枝)ため、剪定時に注意が必要です。オリーブは浅根性のため早ばつが続くと実の太りが妨げられます。極端に乾燥すると実が皺しわになり落果します。今夏は連日猛暑日が続いており根張りの悪い木は水分が十分吸収出来ず、皺しわの実が発生しています。また、浅根は強風にも弱く、丈夫な支柱を立てて倒木を防ぐ必要があります。



オリーブの新漬け（ピクルス）作り



講習会当日は組合員 20 名が実証圃 (40a) に行って、手摘みで 100 kg ほど新漬け用のオリーブを収穫してきました。新漬けに用いる実は、傷のない横径 14mm 以上の未熟果（緑色）です。新漬けにするには鮮度が大切で 15~17 時間以内に収穫した果実を用います。オリーブの実は大変渋味が強く、鳥でさえ食べません。渋は苛性ソーダ（水酸化ナトリウム）の溶液で抜くのですが、講習当日は生憎の雨で果実に水が付くと苛性ソーダの希釈濃度が変わるのでタオルで丁寧に拭取りました。

渋抜き作業は簡単なのですが、美味しい新漬けとなると経験が必要です。作り方は大きなポリ容器に果実を入れて、苛性ソーダ溶液を静かに満たします。そして、果実に溶液がまんべんなく浸せるように、そっとかき混ぜます。その際、少し多めの溶液（果実が泳ぐ程度 写真：左）に入れると、実と実がくっつかず渋が抜けやすくなります。品種や気温によって苛性ソーダの濃度が異なりますが、ミッションは 2% です。講習会当日は気温が 20℃ と高めのため、浸漬時間を 10 時間にしました。（気温が低いと 12 時間程度浸漬が必要）

渋が抜けたかどうかの確認は、浸漬 10 時間ぐらいにカミソリで果実を切って調べます。果肉が 2/3 まで赤色に変化していたら OK です。その後、溶液が透明になるまで朝晩水を 4 日間換えます。透明な水になれば、渋抜きは完了です。果実を取り出し食塩水（2~3%）に浸し、その食塩水を 2~3 日間、毎日交換すると完成です。旬の味が最高ですが、長期間保存の場合は塩分濃度を高くします。

販売する場合は、計量したオリーブの実が入った袋に食塩水を満たし、封をして表示シールを貼り、水から沸かして 10 分間 90℃ に保ち殺菌します。講師の方は、ブラック（完熟）の実は油が多く、コクもあり、種もツルツと口の中で剥けるので食べやすく大変美味しいそうです。漬け方は青い実と同じですが、柔らかい分、苛性ソーダの含量を落とします。

私は苛性ソーダ液の水洗いを 1 回手伝ったあと、残液を酢酸で中和して、帰京しました。暫くして、オリーブの新漬け（写真：上）が大変うまくできたと多度津町産業課の担当者から連絡がありました。早速、新漬けと実証圃で収穫した搾り立てのバージンオイルをサンプル要請して、そば仲間、テニス仲間、会社関係の人たちに試食してもらいました。そのアンケート結果は、どちらも美味しいと大変好評でした。



私はもっとオリーブのことを知っておこうと、日本オリーブソムリエ協会の「ジュニアソムリエコース」を受講しました。そこでテイスティングの大切さを学びました。お客様に生産したバージンオリーブオイルの風味や特長を説明するために、テイスティングは欠かせない技術です。またオリーブの歴史や品種、オイル製造法、料理活用法、アンチエイジングなどの健康機能なども学び、オリーブの効能に驚きました。

私のもっとオリーブのことを知っておこうと、日本オリーブソムリエ協会の「ジュニアソムリエコース」を受講しました。そこでテイスティングの大切さを学びました。お客様に生産したバージンオリーブオイルの風味や特長を説明するために、テイスティングは欠かせない技術です。またオリーブの歴史や品種、オイル製造法、料理活用法、アンチエイジングなどの健康機能なども学び、オリーブの効能に驚きました。

現況（8月末）について：地元は梅雨明け後、連日猛暑で雨が降りません。木によってはオリーブの実が干からびてきています。オリーブ仲間が香川県の「滝宮の雨乞い念仏踊り」の写真をフェイスブックに掲載しました。私は「ぜひ、雨が降ってほしい」と祈りました。去年は台風、今年は早ばつ、なんだか皮肉ですね。（続く）

（古津）

[目次へ戻る](#)

農業高校の今

～ 福島県立岩瀬農業高等学校編 ～

全国の農業高校の取組みを不定期で紹介しているこのコーナー。若者の「農業離れ」が叫ばれる昨今、農業高校に通う生徒が農業に対してどのように向き合っているか、表面上にとどまらず一歩踏み込んだレポートにしたいと思います。「福島県立岩瀬農業高等学校」(愛称「岩農(がんのう)」)の3回目です。

鏡石町と乳牛と岩農

前回の「田んぼアート」でも紹介しましたが、鏡石町のマスコットキャラクターは乳牛の「アーサーくん」です。町内には日本最初の国営牧場であり、120年の歴史を誇る「岩瀬牧場」があります。明治40年(1907年)に日本初となる13頭の乳牛(オランダホルスタイン)と農機具をオランダから導入し、西欧式牧場が始まりました。オランダから友好の証として贈られた青銅の鐘(町指定文化財)は、唱歌「牧場の朝」の中でも歌われ、親しまれています。*今でも鏡石町とオランダとの親交は深く、岩農からも生徒たちが毎年オランダへ研修に行くそうです。

*鏡石町公式HPより



その「岩瀬牧場」の隣にある「岩農」では、乳牛の飼育は生物生産科の生徒たちが行っています。1年生で農作物の栽培から畜産まで一通り学んだ後、2年生からは動物科学コースと植物科学コースに分かれます。動物科学コースでは酪農、和牛、中小家畜とさらに細かく分かれ、乳牛の他に鶏、豚、山羊、馬などを飼育しており、長期休業中も生徒たちが交代で世話をしています。

牛舎や鶏舎を見学させてもらいましたが、どちらも清掃が行き

届いていて清潔・快適でした。牛舎では見知らぬ人間の来訪に、成牛は不機嫌そうでしたが、子牛は歓迎して甘えて

きてくれました。また鶏舎では人懐こい鶏が寄ってきて、我々の会話を足元で聞いていました。

鶏舎を掃除していた3年生に将来の夢について聞いたところ、藤野さんが「鶏関係の仕事に就きたい」と話してくれたのに対し、遠藤さんからは「保育士になりたい」と意外な答えが返ってきました。動物飼育の苦労や経験を活かしていきたいそうですが、活かし方も幅広いなぁと感心しました。



藤野さん(右)と遠藤さん(左)
カメラ目線の鶏



産まれてまだ半年ほどの子牛
めちゃくちゃかわいかったです



シャワーで落ちなかった汚れを手作業で
掻き落とします。これを毎日!



食品加工施設
以前の施設は奥の池へ流されました

食品加工施設
以前の施設は奥の池へ流されました
中に入ると、入り口を挟んで乳製品加工場と食肉加工場が左右に分かれています。乳製品加工場では、最初に生乳を容器に投入すると、加工品となるまで一切外気に触れさせない工夫がされていました。室内は非常に清潔に保たれ、生臭さどころか薬品の臭いすらしませんでした。

食品加工施設（震災被害と復興）

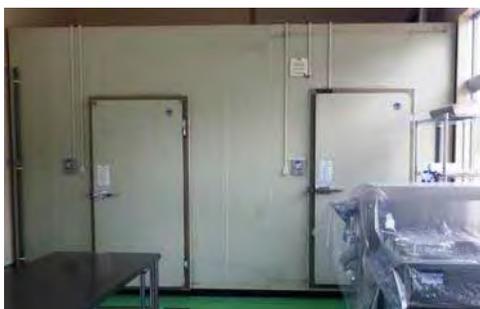
続いて食品加工の施設を案内していただきました。生物生産科の生徒が育てた乳牛から絞った生乳を、食品科学科の生徒が乳製品へ加工します。また原料の肉を調達し、ソーセージも加工しているとのことでした。この建物は周りに比べて新しかったのですが、2011年の震災で倒壊し建て直されたと聞き、納得しました。当時はなぜかこの建物の地盤だけが近くの池へと滑落し、建物ごと流されたそうです。

中に入ると、入り口を挟んで乳製品加工場と食肉加工場が左右

長靴も厳しく
衛生管理



床の色分けは発酵させる食品と
させない食品の作業を区別するため



巨大冷蔵庫。取材日の朝に保管されていた
アイスがフレッシュショップへと出発しました



生乳を投入する容器

授業紹介 その2

前回に引き続き、園芸科学科3年の実習にお邪魔させていただきました。8月に無事メロンを収穫し、ちょうど次の栽培作物にとりかかるところでした。今年は盛夏系の品種に変えたおかげで、糖度の高いメロンがたくさん獲れたそうです。この日は男子生徒が畝を少し高くする作業、女子生徒がスポンジの苗床に播種する作業と、分担して実施していました。



均等に並んだ種
スバラシイ

次に栽培する作物は全部で3種類（水菜、リーフレタス、かきちしゃ（サンチュ））あり、7つの苗床に均等に播種していきます。ピンセットを使って種を苗床へと埋めていくこの細かい作業に、始めは悪戦苦闘していた生徒たちも、次第に集中して動きも素早くなっていきました。この作業でも個人差が出ますが、何でもそつなくこなす生徒が苦戦していたのが意外でした。





一方の男子生徒は、ハウスで畝を高くする作業を行っていました。畝を一段高くすることで、作業効率を上げることが主な目的ですが、トマトなどは巻いた茎を下まで垂らすことができ、収量アップも期待できるそうです。

おまけ

前回の取材でご紹介した「田んぼアート」。ちょうど見ごろということで再度お邪魔しました。前回に比べ、彩が増し、絵がはっきりと浮かび上がっているのがわかりました。特に前回まだ青かったかぐや姫の顔がきれいに色づいており、なんと隠れキャラまで出現！この後稲穂は頭を垂れ、収穫期を迎えます。



これまでの畝(右)から
30センチほど高く



なかなかお目にかかれない「いとひば」の剪定作業。樹齢100年超の巨木だけあって、2人で3時間がかかりでもまだ3分の1！



隠れキャラ、わかりますか？



校舎に掲げてあった垂れ幕に「馬術競技部インターハイ優勝」の文字が！どおりで先ほど馬場に現れた馬が、我々の前で得意気に立ち止まったわけです



泥浴び中♪

(太田・竹迫)

[目次へ戻る](#)

お知らせ

訪問農家さん募集！

「農家さん訪問記」の取材にご協力いただける農家さんを募集しています！

必要事項を明記のうえ、お客様相談室までご連絡ください。

農家さん(i-農力会員。他薦の場合は、推薦者が会員)であれば結構です。

たくさんのご応募、お待ちしております！！



詳細はこちら



読者プレゼント実施中！

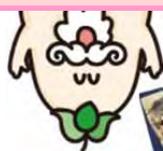
「i-農力だより」をご愛読いただいている会員様を対象に、「読者プレゼント」を実施しています！
毎月「農家さん訪問記」で訪れた地方の特産品(お菓子や加工品)を抽選で1名の方にプレゼントします。
たくさんのご応募お待ちしております！

応募方法

今月号の「i-農力だより」で気になった記事を1つお選びいただき、ご意見・ご感想をお寄せください。

応募締切：**10月16日(日)**

詳細はこちら



[目次へ戻る](#)

i-農力だより農園

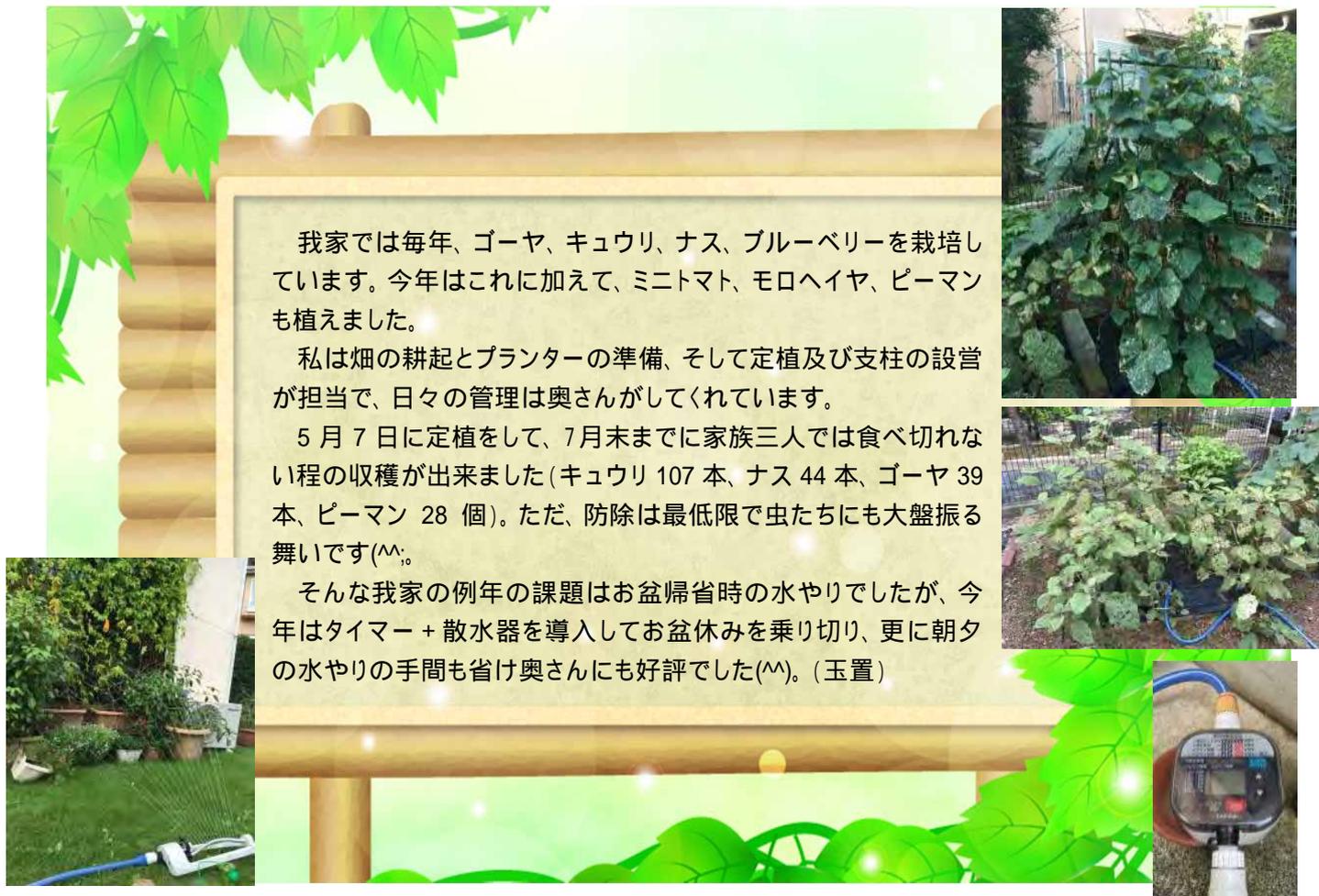
「i-農力だより農園」では、今月も社員が奮闘しながら作物を育てています。農家のみなさんの気持ちがかかるようになるのはいつの日か？みなさんからのコメントもどしどしお寄せください！

我家では毎年、ゴーヤ、キュウリ、ナス、ブルーベリーを栽培しています。今年はこちらに加えて、ミニトマト、モロヘイヤ、ピーマンも植えました。

私は畑の耕起とプランターの準備、そして定植及び支柱の設置が担当で、日々の管理は奥さんがしてくれています。

5月7日に定植をして、7月末までに家族三人では食べ切れない程の収穫が出来ました(キュウリ107本、ナス44本、ゴーヤ39本、ピーマン28個)。ただ、防除は最低限で虫たちにも大盤振る舞いです(^;)。

そんな我家の例年の課題はお盆帰省時の水やりでしたが、今年はタイマー+散水器を導入してお盆休みを乗り切り、更に朝夕の水やりの手間も省け奥さんにも好評でした(^)。(玉置)



氏家農場長(今月はトウモロコシ)

玉置さん、さすが副農場長だけあって、奥様ともどもしっかり管理されていますね。自動散水機、遂に購入しましたか！「かてさい仲間」ではあこがれのグッズですよ。私も欲しい！

さて、我が菜園ですが、夏野菜も終わり、今は秋野菜の段取りです。我が菜園ではトウモロコシが秋野菜です。8月播種で10月末頃収穫です。この時期に作ると寒暖差で甘みが乗って、夏どりよりウマウマです。問題は霜ですね。その他、秋じゃが(にしゆたか)は植え終わり、スナップエンドウ(年内どり)、ブロッコリーも定植済です。

[目次へ戻る](#)

美味しい時間へようこそ♪

これはピーマン? いえいえ・・・(汗)

相談室から佐伯がお送りします
 食べることは生きること
 美味しいとはなんと幸せなことか。
 日々の美味しい話を思いつくまますお届けします。



さてさて今月は先月号でお話した「夏休み大冒険旅」で買い込んできた地場野菜の話です。先月号では、茨城県大洗港から北海道に船（自家用車も一緒）で渡り、帰りの船がまさかの欠航で、急遽新潟港経由で帰宅したとお話しました。自家用車での旅だったので、北海道や新潟で土地の美味しいお米や野菜などを買い込んできました。北海道では、お米の「ふっくりんこ」、アスパラガス、じゃがいも、紫ピーマン、とうもろこし、さくらんぼなどを、そして、新潟県では魚沼産コシヒカリ、ずいき、焼き麩などを買い求めました。また、珍しいものとしては、新潟でピーマンに似た「かぐら南蛮」を手に入れて帰ってきました。この「かぐら南蛮」なかなか手強いやつでして・・・ということなので今回はこの「かぐら南蛮」についてお話します。

「かぐら南蛮」とは、一見ピーマンのようですが、実はとうがらしなんです。あるホームページによると、「新潟県古志郡山古志村（現長岡市）で栽培されるきわめて独特な南蛮（とうがらし）である。肉厚、大型で、さわやかな辛味が身上で、ゴツゴツとした外観が神楽面に似ていることから『かぐらなんばん』と呼ばれるようになった。」とあります。新潟県に初めて足を踏み入れた私ですから当然初めての出会いでした。このかぐら南蛮とは途中立ち寄った長岡市の地元スーパーで、まず出会いました。「お？ピーマンかな。でもなんか面白い形・・・」と気になりましたが、そこでは何となく買い求めませんでした。そうしたら、その後訪れた友人宅で、偶然にもおすそ分けでいただいていた（ラッキー！）。でね、その友人が言うのです。「これはすごく辛いから調理するのも気を付けてね。直接手で触るとえらいことになるからビニールに入れて足でつぶして種とワタを取るのが良いよ。」と。え！？なにに？「調理法は油味噌にするのが一般的かな。」ほほう～これは危なかった。さっきのスーパーで何も知らずに買ってしまって、何も知らずに調理していたら大変なことになっていたかも！？（汗）



これが「かぐら南蛮」だ！

帰宅してから早速レシピを探して、油味噌を作ることになりました。レシピ掲載ページにも「調理には気を付けよ」とあります。いったい、どんな野菜なのよ～？と、ビビりながらもまずはビニール袋を手にはめて、「炒めている時の煙も吸い込まぬよう」とあったので、扇風機を横から当て、換気扇を最大に回し、なんなら伊達メガネまでして、娘が寄って来てはいけなと深夜、子供が寝静まってから調理をしました。まず、かぐら南蛮をひたすら刻みます。辛すぎると食べられないのでネギ、大葉なども一緒に入れて、盛大に炒めて砂糖と味噌を投入！かきまぜれば・・・で・・・できた～！！



これだけで
美味しい油味噌♪

で、お味は！？（ドキドキ・・・）「あれ！？辛くない！！」かぐら南蛮自体、少し時間が経ってしまい辛みが抜けたのか、ネギや大葉で紛れたのかあんまり辛くない！でも、これはこれでとっても美味★これなら娘も食べられると結果オーライで、その後、おにぎりに乗せたり、こんにゃくと和えたり、きゅうりにつけたり、お肉に乗せたりしてご機嫌で食べています。でも何となく、もう少し辛いのを食べてみたかった気もするので、またチャレンジしたい！また新潟まで買いに行こうかな～なんて思ったりしています（笑）。いや～まだまだ知らない地場野菜がありそうですね。旅に出る楽しみがまた増えました。（佐伯）



味噌きゅうり
たまりません★

（後日談）本誌編集者の太田さんにも「かぐら南蛮」をおすそ分けしたのですが、私の「辛くなかったよ～」をうのみにした彼女は、あろうことか素手で調理してしまい2日ほど手が腫れてしまったそうです（気を付けてねって言ったのに～）。むむむ・・・やはり油断禁物！あなどれぬ「かぐら南蛮！」なのでした。（ごめんね・・・太田さん）

～ 編集後記 ～



今回訪問した農家さんはパパイヤを栽培していましたが、畑の土質により生育に大きく差が出ることに驚いています。過去多くの農家さんを訪問し、いずれの農家さんも土づくりの苦心を述べられていますが、土の重要性を今更ながら再認識しています。

ところで、訪問先の農家さんに案内いただいた JA あいち中央の車には「農機盗難多発!! 警戒中」のステッカーが貼ってありました。案内いただいた中村さんに何うと、畑に置いてある農機はもちろん盗難に会うことが多いのですが、小屋に収納している農機も狙われるようで、油断できない状況だそうです。

今回の農家さん訪問は三河湾に面する三河平野でした。三河安城駅を降り、小川町までの車窓にはだいたい栽培が目立ちました。当地の周辺では水稲>麦>だいたいのローテーション栽培が広く普及しているようです。訪問時に新幹線で通過した滋賀県の湖東地方でも、水稲>麦>だいたいのローテーション栽培が広がっているのが車窓から見て取れます。お米の需要が徐々に減少している現在、このような栽培形態が増加していくものと思われ、日本農業の変化を強く感じました。



(山脇)

今回の農家さん訪問記では、JA あいち中央の梨、パパイヤ農家 杉浦さん宅を訪問し取材をしました。

愛知県での梨の栽培は、明治中期に始まったとされています。現在の安城市、豊橋市、豊田市などで栽培され、全国の露地産地の中でも、早い時期から出荷できる愛知県が誇る果物の一つです。

今回取材した安城市の梨の歴史は、明治 30 年長野県下伊那郡の松坂啓蔵氏が安城に苗を持って移住したことが始まりだそうです。

安城の土地は気象条件が梨作りに合ったこともあって、当地で栽培が盛んになったそうです。

歴史ある安城の土地に、一本の苗から新しい作物「パパイヤ栽培のチャレンジ」が始まっています。

私が思うに、近い将来杉浦さんは、日本一のパパイヤ農家になるのでは。また取材に行きたくなった農家さん訪問記でした。

(守住)

次月号の - 農力だよりは
10月31日(月)の発行予定です。
どうぞお楽しみに!!



[目次へ戻る](#)